

事業報告書（令和4年度）

事業名 性教育のイメージの偏りを払拭したいママ助産師の挑戦

団体名 Life is 担当者名 東海林みゆき

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

第1回 2022年9月29日、

あしもり遊学舎レンタルスペース旭、6人

テーマ：人間関係

遺品整理の仕事をしている講師から「孤立死・孤独死」を通して人間関係について。

一見すると従来の「性教育」とは繋がらないテーマだが、「生まれること」「生きること」「死ぬこと」を普段はそれぞれ点でしか意識をもてなかったが、すべて繋がっていると考えることができたなどと感想を頂く。



第2回 2022年10月31日、

あしもり遊学舎レンタルスペース旭、11人

テーマ：ジェンダーの理解

トランスジェンダー当事者に講師をお願いし、女性として生まれ、幼少期に違和感に気づいた頃から、現在の充実した生活に至るまでの半生。苦悩したお話も不思議と暖かな気持ちになる講話でした。どうすればジェンダーに悩む方々が暮らしやすくなるかなど話し合う。



第3回 2022年11月11日、あしもり遊学舎レンタルスペース旭、4人

テーマ：暴力と安全確保

子どもシェルターなどで働かれていた講師からのお話。

DV、デートDVは決して他人事ではないこと、暴力を受けた人が安心して過ごせる場所づくりには繊細な配慮が必要なことを学び、「安心」について

参加者と話し合う。

第4回 2022年12月10日、
あしもり遊学舎レンタルスペース旭、11人
テーマ：価値観、人権、文化、セクシュアリティ

現役女子高生講師による話。化粧品メーカーのコンセプトの変化による、ジェンダーの捉え方の変化などをお話頂く。女子高生の鋭い気付き・意見に大人も驚いたりうなずいたり学びの深い時間となった。



第5回 2022年12月20日、
あしもり遊学舎レンタルスペース旭、6人
テーマ：メディアリテラシー

SNSを介した性トラブル、いじめを未然に防ぐため、性教育の一環としてのメディアリテラシーについて。情報の多さや安全に使うための知識などお話頂く。



第6回 2023年1月7日、
あしもり遊学舎レンタルスペース旭、9人（小学生以下は無料）

テーマ：人間のからだと発達

前半は子どもを対象にプライベートゾーンに関するお話（大人も聞いている）。後半は会場前方と後方で子どもと大人に分かれ、子どもは絵本から体についての学びを深め、大人は家庭内で性教育を行う心構えなどをお話頂く。



第7回 2023年1月27日、
あしもり遊学舎レンタルスペース旭、2人
テーマ：セクシュアリティと性的行動

日本におけるポルノ文化とその影響についてお話頂く。性教育に対するイメージが偏っているのもポルノによる影響が大きい。参加人数が少なかったため、話し合いの時間には東海林、講師のおっ産ずさんも混じりそれぞれが思う性のあり方について話し合う。

第 8 回 2023 年 2 月 18 日、あしもり遊学舎レンタルスペース旭、7 人

テーマ：性と生殖に関する健康

講師陣によるリアルなお産劇など。「痛い」「いやだ」という表現のないお産の様子は恐怖のない、感動にあふれるものだった。見ていた子どもたちは自然に産婦役の頭やお腹を撫でたり、「僕がいるから大丈夫だよ」など声がけする様子も見られた。最後全員から感想を頂いたが、「もう一度生まれることができた」「性に関する考え方が変わった」「多くの人にこのイベントに来てほしい」など感想を頂く。

2. ESD の視点

①事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

参加申し込みをくださった方には、性教育に携わっている方、医療職の方、教員の方が多かったが、それでも性教育は妊娠や避妊法や身体の名前の名称を学ぶものというイメージを持たれていた方が多かった。事業を通して「性教育とは多岐に渡るものなのだと知った」「大勢の人に知って欲しい内容」と感想を頂いた。参加して下さった方が種となり、知人を誘う、告知を手伝うなどしてくれた。一参加者が発信者となり、ESD のもつ力が発揮されたのではないかと思う。

②どのように学び合いを取り入れたか

価値観の共有の時間を多くとるようにした。

SDGs トークというカードを利用して、1 から 2 個のテーマについて意見を出し合い、否定はせず、共感、応援、驚きなど意思表示をすることで、多様な価値観に触れながら、結論でなく、思いを尊重し合う時間をとった。多世代交流にもなった。(0 歳～60 代)

③どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

前半は講師による講話を、後半は②にも記述した SDGs トークというカードを使用して話し合う時間を設けた。この時間によって前半の講話から受け取った学びを、自分事としてどう捉えたかを言語化することができている。さらに言語化してもらった内容は仲間からの共感、応援を受け自信を持つ後押しとなっている。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

・性教育の偏ったイメージを払拭し、性教育を受けたいと思う層を増やすという目標については、普段つながらない方、新聞をみて申し込んでくださった方など約 80 名（子ども含む）の方に参加してもらうことができ、性教育の様々な側面に触れてもらうことができた。

・親も子も、社会人の男性なども含め、自分事として性教育を捉え、自分を大切にできる人を育て、自分と周りの人々の命と健康、人権を尊重することができる人を増やすという

目標については、参加者の 9 割が女性であったことから、すべての所属に対し幅広く知ってもらえたとは言えない。来期は開催日時、告知方法などもっと工夫が必要である。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

頂いた感想やリピート率が高かったことから、参加して下さった方には主催者の抱く課題を理解してもらえたように感じている。しかし、参加人数、参加して下さった所属（性別・年齢層・職業）には偏りがあり、幅広く知ってもらうという点については達成できていない。

既に性教育に正しい理解と興味を示して下さる方だけでなく、今まで興味がなかった方、正しい認識をしていなかった方に届くよう、多くの方が目にするメディアなどに協力してもらい来年度も同様の事業を行っていきたい。